

C 3

3ヶ月時の母子関係と12ヶ月時の愛着との関連について  
上越教育大 大瀬 ミドリ

目的 3ヶ月時の母子関係と12ヶ月時に子どもが母親に対して形成する愛着の pattern との関連について検討する。

方法 ①対象：3ヶ月時と12ヶ月時の資料が完全に入手できた母子40組である。男児24名、女児16名である。

②方法：対象児の3ヶ月時に2日間に亘る家庭訪問を行ない、母子の行動、母親の養育態度及び家庭環境等について *time sampling* 及び評定により資料を収集する。なお、母子の行動についてはそれぞれ独自の行動15項目についてその頻度を *time sampling* により見る。母親の養育態度については4尺度により9段階評定を行ない、家庭環境についてはHOM E尺度を施行する。また、12ヶ月時の愛着 pattern の分類は Ainsworth の Strange Situation Procedure により行なう。

結果 ①12ヶ月時における愛着の分類について：愛着の各 pattern における比率についてみると A baby (Avoidance) 12.5%, B baby (Security) 67.5%, C baby (Ambivalence) 20.0% である。

②母子の行動について：子どもの各行動を愛着 pattern との関連で見ると15項目の中で4項目に顕著な差異が見出されたのに対して母親の行動については15項目中7項目において pattern による差異が認められ、愛着 pattern による差異は子どもの行動においてよりもむしろ母親との行動の間により多く認められる。

③母親の養育態度：4尺度中3尺度において愛着 pattern による差異が認められる。

④HOM E尺度：7尺度中3尺度において愛着 pattern との間には差異が認められる。